

二中の木

学校報
第15号
H27/12/25



能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

「平成二十七年学校評価（十二月集計）」 保護者へのアンケート結果まとめりました。

今号では、12月14日から実施した平成27年度「学校評価アンケート」保護者分の集計結果についてお知らせします。例のような選択肢で評価は5段階としました。ただし、実際の選択肢は質問内容の表現に合わせてアンケートは実施しています。また、質問内容によっては5段階で評価できない内容もありましたので、4、3段階での評価をお願いいたします。いずれも肯定的回答、否定的回答という整理の仕方を用いています。今年度新たな質問については、昨年度との比較はできませんので、「新」の標記で区別できるようにしました。

- ⑤: そう思う
 - ④: どちらかというと思う
 - ③: どちらとも言えない
 - ②: どちらかというと思わない
 - ①: そう思わない
- ～5段階の評定の例～

保護者アンケート結果



3新 『学校は、校訓を取り上げて生きる力を育てている。』
4 『自分の子どもは、楽しそうに登校している。』

1新 『学校は、開かれた学校経営に努めている。』
2新 『学校は、特色ある学校経営を展開している。』

12 『自分の子どもは、今の部活動に入部してよかったと思っている。』
11 『自分の子どもは、悩みを話せる友人がいる。』



9 『スクールカウンセラーは、保護者にも対応することを知っている。』
10 『自分の子どもから悩みを相談されることがある。』

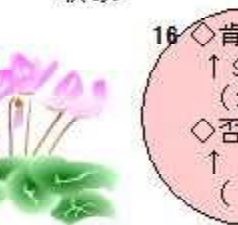


7新 『学校は、いじめ調査による実態把握や指導に努めている。』
8 『学校には、スクールカウンセラーがいることを知っている。』

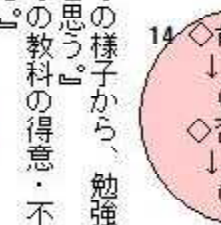
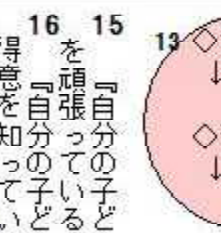


5 『学担、教科担任は自分の子どもをよく理解している。』
6 『自分の子どもは、学級が楽しいと言っている。』

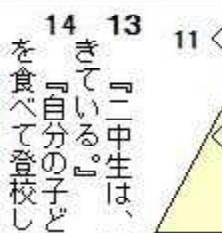
18 『自分の子どもは、家庭学習を頑張っている。』
17 『学校では、家庭学習の充実に取り組んでいるが、効果はあるか。』



15 『自分の子どもの様子から、勉強を頑張っていると思う。』
16 『自分の子どもの教科の得意・不得意を知っている。』



13 『二中学生は、挨拶がきちんできています。』
14 『自分の子どもは、毎朝朝ごはんを食べて登校している。』



11 『自分の子どもは、毎朝朝ごはんを食べて登校している。』
12 『自分の子どもは、毎朝朝ごはんを食べて登校している。』



今回は、前年度調査との比較で、肯定回答率と否定回答率の平均に相当程度の差がありませんでしたので、矢印の向きを根拠にして背景に○、△、□を置いてはけません。現状、肯定回答

結果を読み解くにあたって



21 『私の子どもたちの学習状況について、説明は十分にされている。』



19 改 『全国・県学習状況調査の結果に
関心がある。』
20 『自分の子どもは、将来の目標や夢を持っている。』



結果と考えられること

75%を境目として○、△を置き分析の目安にしました。前年比較のデータは、個別の質問の分析に生かせるように矢印の標記を残してあります。
また、12号・13号と同様に数字は四捨五入の処理をしていますので、±1ポイント前後の変化の読み取りには注意が必要です。

今年度、「開かれた学校」・「特色ある経営」・「校訓に基づく教育活動」の三点を二中経営を貫く姿勢とし、リーダーシップ・組織力・指導力の充実で学校教育目標の実現を図ろうと構想し学校運営を行ってきました。
○今回、三つの姿勢について、新アンケート項目として率直に質問させてもらいました。1〜3について、①様々な教育活動の目的や方針が理解された上で協力をいただく、②生徒・保護者・地域の方々に二中ならではの活動に誇りを持ってもらい「二中生でよかった」、二中関係者として二中を支えることができてよかったの思いを抱く、③卒業後も二中魂「校訓 自主・不屈・友愛」を支えに地域の一員として活躍できる、といったことが実現できるように取り組んでいるところです。
今回の結果は、大きな励みになりました。一層皆さんに応援いただけるように努めます。
○4〜14は、「生徒指導の充実」に役立てようと設定した質問です。学校や学級に居場所があり、担任・教科担任との関係が良好であることが学校生活の基本だろうと思えます。しかし、

課題と考えられること

これらは統計的な数字の問題ではなく、つまりしているのなら支援しなければならぬ、生徒にとっての現実の問題です。ある程度の評価をいたしましたが、連携を大切に間断なく努めます。

□「生徒指導の充実」の中で気掛かりなことは、生徒の抱えている「悩み」にいち早く気付くための手立ては大丈夫だろうか、解決への支援は十分だろうかということ。学校では、生徒の交友関係や悩みを把握するために「QRコードテスト」、発見と解決に向けた「いじめ実態調査」、学校生活の現状を正確に把握するための「学級担任面談」、学習支援のための「教科面談」、面談したい先生を指名して行う「教育相談」等々で支援に取り組んでいるところ。お子さんからの悩みを相談される保護者の方も少なからずいるようです。個人情報保護の立場をしっかりと守りながら、教職員間には勿論のこと、保護者と教職員間、時には地域との情報共有で解決を促していきたいと考えます。
□15〜21は、「学力向上」に関する質問です。家庭学習の様子に心配を抱く保護者の方々が少なからずいらっしゃいます。学習内容に踏み込んでアドバイスできていない家庭はともかくとして、現実には少しいても時間を割いて、中学生のお子さんの家庭学習に寄り添うことは難しいことだと思えます。しかし、部活動、塾、稽古事等々の忙しいスケジュールの中で、家での学習にはこんな計画で臨もうという気

～集計を終えて～

生徒アンケートから始まり、教職員アンケート、保護者アンケートと集計してきました。校長としては1年目の今年、昨年までの取組や評価を見据えて教育活動を進めてきました。ある程度の評価をいただきながらも、生徒や保護者が改善を実感できるところまでの取組の充実が必要だと強く感じています。

次年度は、昨年の評価にこだわらず、改善に生きる質問項目へと刷新したいと考えています。【終】



持を励ましたり、時間の使い方へのアドバイスをお願いしたいと思います。家庭学習は、学校での学習や学習への姿勢づくりに役立つように、学校と家庭とで連携を取り合って頑張らないといけないなど、あらためて感じたいところでした。
要望等の自由記述については、すべてそのまま教職員に配布し確認し合ったところです。温かい励ましは、明日の教育活動に弾みをつけてくれました。ご自分のお子さんばかりか、全校の改善へ向けての提言は、学校運営への意欲をかき立ててくれました。また、いつも通りの取組で過ごしてしまっていた見落としには、気づきを提供してくれました。この後開かれる分掌ごとの会議でも、いただいたご意見を大切に扱って参ります。